

〈令和3年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	SASP
事業名	ミニミュージカルとワークショップの実施
補助金額	500,000円
事業の目的	
子どもたちに向けて、私たちがこれまでに経験してきたような歌やダンスを楽しみ、自分を表現する機会を提供することで、前向きな気持ちや自分への自信につなげてもらい、その姿を見た保護者の方や、地域の方々に文化・芸術の力を実感してもらい、今後文化・芸術がより重要視される社会を作っていきたい。	
事業の内容と成果・効果	
＜事業の経過と内容＞ 個人レッスンを含む全18回のワークショップを行った。滑舌の指導、個人の歌唱レベルに合わせたレッスンも行う等、令和2年度よりレベルの高い指導を行った。 成果発表となるコンサートは、二部制にし、一部ではプロのステージを鑑賞しながら、「表現することの大切さ」を学んでもらう最終レッスンとした。社会的養護について知る機会をもうけ、自分の恵まれた境遇について理解することにより、周囲への感謝の気持ちや、頑張ることの意味を考えてもらい、『子供たちの心を育む場』とした。二部では子供がメインのコンサートとし、各々ソロで一曲歌ってもらう等、人前で自分を表現することを楽しむ場とした。 ＜成果・効果＞ 3月成果発表コンサートを行った（ワークショップ参加人数19人、コンサート来場客46名、配信視聴者数182名）。歌やダンスを通して、技術や感性を養い、ワークショップや本番を通して、物事に真摯に向き合う等、非常に意欲的でプロ意識のある態度が見られた。昨年とは異なり、全員がソロをすすんで歌い、堂々とパフォーマンスを披露し、心の成長もみせた。達成感とさらなる向上心から、事業の継続の要望を受けた事から、子供たちの人生に大きな影響を与えることができたと感じている。また、子供たち同士でも、連帯感や仲間意識が芽生え、この場に来ることを楽しんでいると感じた。コロナ禍で学校で思うように遊べず、集団での心の学びが奪われていく中、本事業があって良かったと保護者から感謝の声をいただいた。子どもたちが、歌やダンスで才能を発揮し、自分にも自信をもてる分野があるのだと知り、学校でも生き生きと生活できるようになったという話も聞き、本事業で心の問題にも対処ができたと感じている。 文化・芸術には力があるのだと改めて世に伝えたい。 昨年からの事業期間全体を通して、地域のイベントにSASPと一緒に参加するなど、結果的に、この事業が【若者による地域の活性化】や、【地域への文化芸術活動の振興】という形で、地域への貢献につながったのではないかと感じている。	
 (写真) ワークショップでのレッスン風景	
 (写真) 練習の成果を披露した成果発表コンサート	
事業を実施しての課題	
技術を高めたい、SASPと一緒に活動したいという強い要望をいただいたが、メンバーがプロとして仕事をしていくようになる中、この活動に時間を割ける人員の確保が難しくなっている。さらにSASPの活動が藤沢市だけでなく、文化庁の事業などにも広がった事から、運営規模や動かす資金がどんどん大きくなっているにも関わらず、事務方の人員は増えていない。専門的な知識が必要な事が多いため、有償で人を雇う資金調達が課題であったが、文化庁の事業では人件費も十分にもらえることがわかったため、今後は助成金や補助金を利用し、専門性の人材を雇いたいと考えている。	